



## アート作品と懐かしい 農村風景が共存する場所

知床から連なる山々、広大な牧草地や格子状防風林などの雄大な自然が広がる中標津町に、アート作品に出会えることで知られる農場があります。その農場の名は佐伯農場。

農場に一步足を踏み入れると、そこはまるで緑に包まれたアート空間。薪とステンドグラスを使った作品など、印象的なオブジェが点在していました。中には廃サイロを利用して作った美術館や、今では建てるのが難しい※マンサード屋根の牛舎を利用した休憩所も。昔懐かしい農村風景が新しい息を吹き込まれ残されていました。

※マンサード屋根・屋根の勾配が上部がゆるく、下部が急な2段になっているもの



※マンサード屋根

## ゆっくりとした 農村での時間を 思い思いに過ごして

「感じたままに過ごしてほしい」と佐伯さんは言います。牧場内の小川を散歩する人、レストランで食事する人、アート作品を鑑賞する人、皆思い思いの時間を過ごしています。牧草地帯を歩いて旅する人のために、牧場内にあるトレーラーハウスとマンサードホールを開放していることから、のんびり休憩する、旅人の姿もみられました。



## 一枚のサイロの絵が きっかけで農場に 人が集まるように

農場を営むのは、二代目農場長の佐伯雅視さん。酪農業を営みながら、農場内にアトリエを設けアーティストに創作の場として無償提供するほか、自らも創作活動に打ち込んでいます。

昔からサイロのある牧歌的な風景が好きだった佐伯さん。農場内にあるレストランの壁に一枚のサイロを描いた作品を飾ったことがきっかけで、徐々に現在の形が作られていきました。2001年に荒川版画美術館が開設されてからは、ますますその名が知られるように。春から秋にかけての観光シーズンには多くの人たちが農場を訪れます。佐伯さんの活動を通して、農場が作家の舞台になるだけでなく、農村と人々の距離がより一層近いものになっていきました。



## 温かく迎え入れて 見守ってくれる農場

佐伯さんは、先代から引き継ぐ「東京むそう村」というボランティア活動も行っています。これは首都圏の子どもたちを受け入れ、牧場の一角で自然体験をしてもらうもの。ここの体験を通し、子どもたちは驚くほど視野を広げて帰っていきまます。農場内で作品を発表しているアーティストの中には、「東京むそう村」の出身者もいるんだとか。「これからもこれらの活動を続けていきたい」と、佐伯さんは語りまます。佐伯農場は昔懐かしい農村風景をアートする農場という新しいカタチで残しながら、旅人や子どもなど、さまざまな人たちを温かく迎え入れ見守ってくれる農場でした。



# 懐かしい農村風景に、新しい息を吹き込んで。

## Saeki Farm

### 緑に包まれたアート空間 「佐伯農場」

中標津町俣落2000-2 TEL 0153-73-7151  
●荒川版画美術館: 10:00~17:00、木曜休、入館無料  
●レストラン営業期間: 4月下旬~11月上旬 10:00~17:00  
<http://saeki-farm.sakura.ne.jp/>



行ってみよう!

写真に収めたい  
風景がたくさん



## 地域の酪農家とともに 牧草地を歩く道を作る

ランチ(Ranch)とは、大牧場の意味。「牧草地帯の魅力を感じてほしい」と思い立ち、中標津の酪農家たちと共に、歩く道を作りました。中標津から北根室まで続く広大な牧草地を通り、摩周湖を周るロングトレイル(長距離自然遊歩道)は、のんびりゆっくりと農村風景の魅力を楽しめます。歩くことは人間の本質だと佐伯さんは考えています。地平線の向こうまで広がる牧草地をただひたすら歩くことで、いろいろな気付きが得られるかもしれません。



佐伯さんら酪農家が作った  
牧草地を歩く道



Kiraway.net

### 2018年秋号へのお便り

私は後継ぎではないのですが、男性諸君のどなたか、父の後継者(私の婿)としてウチに来ていただける方を募集しています。将来農業をやってみたい...という方でもかまいません。どうぞよろしくお願いいたします。(名寄市 40代女性)

### 読者から

### 編集者から

女性農業者向けの婚活イベントも各地で行われている中、農業女子の中には、自らイベントを企画し、見事結ばれた方もいらっしゃるようです。

